100 100th ANNIVERSARY KONAN GAKUEN
2019年4月、学校法人甲南学園は創立100周年を迎えます。
これからも「人創り」の教育を受け継いでまいります。

甲南大学方言研究会（都染ゼミ）

地域のことばの生態をたずねて

時を継ぐ

今をとらえ、過去を知り、未来を予測する

「ことば」を訪ねる

司馬遼太郎さんは、歴史という時をたどる旅人であるとともに、同じ時代を生きた人々の住む各地を旅した人物であった。「地域の広がりと、時が刻んだ世代の広がり」、甲南大学文学部都染（つそめ）ゼミ（甲南大学方言研究会）では、これら二つの広がりに注目して、1990年以来27年にわたって「ことば」を訪ねる研究を続けている。

都染ゼミでは、社会言語学的方言研究をテーマとして、福井県・京都府・兵庫県から、広島県・島根県に至る地域で方言調査を行い、「近畿・中国接境地域」での方言動態（方言が変化しているようす）について、グロットグラムを作成し、分析している。グロットグラムとは、1969年に日本で考案された方言研究の技法で、「地理年代言語図」とも呼ばれ、方言の地理的分布と、年代変化を併せて見ることのできる図のこと。近年になって中国や台湾など、海外の方言研究にも使われるようになった。

一つの例を見てみよう。左の図は、京都から山陰本線に沿って、兵庫県豊岡市までの各駅（京都市内は2駅のみ）で、3世代（高年層・中年層・低年層／調査時点で70・40・10代）の土地の生え抜きの男女を調査した結果の一部（男性資料）。「（バスが）来ない」をどのようにいうかの結果である。

同じ地域でも世代によって使うことばが違うことや、同じことばが使われる地域の境界線を知ることができる。

現在も生まれる方言

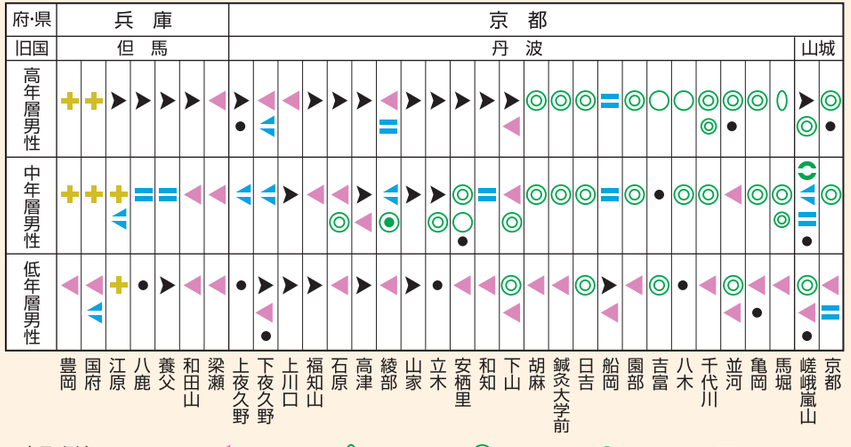
「方言」というと、地方のお年寄りが使うことばと思われがちであるが、都会の若い人たちが使うことばの中にも、「方言」と言えるものがある。よく話題にのぼる、間違った日本語や若者ことばのように思われがちだが、そうではない。これまでの日本語の歴史が繰り返してきたように、21世紀を迎えた現在でも都会や地方を問わず、各地で「新しい方言」が生まれ、広がっているのだ。

現在のことばの生態をとらえることで、歴史を振り返り、未来を予測する。司馬遼太郎さんが旅を通して独自の作品世界を形作ったように、学生たちは、ことばを訪ね成果をまとめるという作業を通して「一歩踏み出す力」「考え抜く力」「各地の方々やゼミの仲間と協調する力」を伸ばし、個性を磨いている。

絵や写真をもとに、ふだんのことばを調査する

（バスが）来ない

JR山陰本線 京都―豊岡間
グロットグラム 甲南大学方言研究会



（枠内の複数記号は、お一人で複数回答されたことを表わす）

甲南Ch. 甲南大学の学びいろいろ、詳しくは甲南Ch.へ
http://ch.konan-u.ac.jp/
「甲南チャンネル（甲南 Ch.）」は、甲南大学の今の姿を、分かりやすく伝えるウェブサイトです。大学の学び、先端の研究、学生の活動、そして大学のある街の様子にいたるまで、随時更新される新着情報では、大学の姿をリアルタイムでお伝えしています。ぜひ甲南 Ch. をご覧ください。

甲南大学
KONAN UNIVERSITY
〒658-8501 神戸市東灘区岡本 8-9-1